

えい ちよう  
栄 和 町

## 長い経緯をたどった町

町名が生まれるまでにたどった長い経緯は、この町が檀原市内でいちばん複雑だったようです。

その経緯をたどりますと、隣の明日香村から流れ出た飛鳥川が甘檜丘（あまかしのおか）の北で大きく流れを変える西側一帯に、まず東大寺領の「和田庄」が平安時代の末期に姿を見せます（和田町の項参照）。

江戸時代に入って和田庄が「和田村」となり、元禄―天保年間（一六八八―）に村の一部が分村して「出屋敷村」となっています。

この出屋敷村が明治時代の初めに「和田出屋敷村」と改称し同二二年に白檀村の大字・和田出屋敷となり、昭和三年に畝傍町の大字になったあと同三一年の檀原市誕生で和田出屋敷町となり、翌年に改名してやっと生まれたのが「栄和町」です。

町が生まれた当時の、人口は一三三人（二五戸）でしたが昭和五五年に四五三人（一四〇戸）と増え、平成一二年現在一六六五人（六二八戸）となっています。

古い住民から聞いた現町名の由来ですが、なごやかに「栄」えることを願いつつ古くからの和田出屋敷の「和」をとって、現町名の「栄和」が生まれたようです。